



「主体性は『視点』を変える経験で高めていくことができると
思います。」

石原菜摘さん（音楽教育専修初等教育履修分野2回生）

ある授業で、模擬授業を行う自分の姿を自分の iPhone で撮影したものを用いて内省した石原さんは、動画とともに内省したことをポートフォリオシステムにアップロードしました。

そこで、彼女自身がこの活動をどのように捉えていたのかについて尋ねてみました。

Q 模擬授業をしている自分の姿を iPhone で見てみて、いかがでしたか。

正直なところ、最初のほうは自分の姿を見るのが嫌でした（笑）。しかし、3、4回繰り返し
みているうちに、自分ってこういう声なのか、こういう身振り手振りをするのか、ということ
を冷静に分析した結果、自分の姿を受け入れることができるようになってきました。

Q このような模擬授業のために、どのような準備をしたのですか。

時間が1分間と限られていましたので、家でタイマーをかけて何度も練習しました。

Q 同じ気づきを他者から指摘された場合と、今回のように動画で確認した場合とでは、違いがあったと思いますか。

私は違いがあったらと思います。他者から言われると、自身を擁護して素直に受け取れないこともあったかもしれません。しかし動画であるがままを目の当たりにすれば、言い逃れはできません。

Q 動画をアップロードする作業は大変でしたか。

私はもともと機械を触るのが好きなので平気でした。高校時代に学祭のCMづくりなどを経験しているので、どうすれば動画を圧縮できるのかなどについては検討ができました。しかし、動画の圧縮作業やアップロード作業に苦慮している友人はいました。アップロード作業をサポートしたので、提出は無事完了しています。

Q 他の授業でもこのような機会はありますか。

授業を担当されている先生がビデオカメラで撮ってくださることがあります。正直なところ、先生に撮っていただき、アップロードしていただいた場合のほうが安心できますが、すぐに見なおすことができる点では自分のスマートフォンの中に動画があるほうがよいと思います。

Q 今回の経験を、将来学校現場でどのように活かしたいと考えていますか。

将来は、たとえばiPadなどで児童の発表の記録を残して教材研究をしたいと思います。モデルになる発表があれば、この発表のどのような点がよかったのかなどについて、児童と考える時間をつくりたいと思います。

そもそも、記録を残すということはとても大事だと思います。これは私が大学受験を行う前の経験ですが、教員が授業でどのような工夫をしているのかが知りたくて、母校のベテランの先生の授業をビデオカメラで記録して分析したことがあります。これがかなり勉強になりました。ビデオを何十回も繰り返し見て文字起こしをして、気づいたことをメモしていました。

Q まだ大学に入学していない頃から、自主的に授業研究ですか！とても意識が高かったのですね。実際にモデル教師の授業分析をしてみて、いかがでしたか。

最も印象的だったのは、先生の動きです。1時間の中でさまざまな動き方で生徒との距離をとっていることに気づきました。これを見て、大学ではとくに、児童・生徒との距離のとり方について学びたいと思いました。

Q 大学でどのようなことを深めたいのかについて、具体的な目標をもって入学されたのですね。本学はcuffetという指標に基づいてカリキュラムを組んでいますが、このような外部目標をどのように活かすとよいと思いますか。

学校現場でもそれぞれ目標をたてて授業を行っていますが、その意味を自分の中の指標に照らしながら追求する枠組みが必要だと思います。たとえば、音楽で「豊かに表現しよう」という目標があったとしたら、どのように表現すれば「豊か」に表現したといえるのかについて、児童と考える時間をもつことを大事にしたいです。

Q しかしながら、全員が必ずしも具体的な目標を持っているとは限らないと思います。あなたのように具体的な目標をもって意欲的に学ぶことができるかどうかは、何に起因していると思いますか。

私は環境による影響が大きいのではないかと思います。私に「どうしたらうまくコミュニケーションがとれるようになるだろうか」と相談してくださる人もいます。基本的にみんな変わりたいと願っていると思いますが、誰を目標にしたら良いのかがわからない状態ではモチベーションがあがらないと思います。ですから、モデルになるものにたくさん出会える環境が大事なのだと思います。

もし、モデルになるものに多く出会えなかったとしても、常に今取り組んでいることの意味を創り出す姿勢をもつことで、意欲的になれると思います。そのためには、視点を変える経験が重要だと思います。たとえば、今回自分の模擬授業の様子を動画で記録してふりかえりましたが、これも自分の姿のあるがままを視点を変えて捉える経験です。通常の授業などで視点を変えて何かを捉える経験を蓄積することで、課題が見えて目標に発展し、それが主体性を引き出していくのではないかと思います。

石原さんにとって今回の学習は、後者の意味（視点を変えてあるがままの姿を捉えることで目標設定に発展させる）があったということですね。そして、そこで見えたことと外部規準などを照らしあわせて、その関係を探るという作業が重要な学びだと考えていらっしゃるということがよくわかりました。
ありがとうございました。

つぎのページ >> 授業担当者からのメッセージ

授業担当者（森本弘一先生「初等教科教育法『生活』」）のコメント

いつも石原菜摘さんを見て、どうしたらあんなに立派な発表ができるのだろうと思っていましたが、努力の成果だったのですね。

私自身も、学生さんのノートを通して、授業記録を残すようになって、授業が変わったと思います。どの授業も毎年、少しずつ改善をしていますが、古い記録を見直して、元に戻す場合もあります。温故知新かもしれません。

私は、授業では、机間指導を重視していますが、石原菜摘さんも同じようなことを考えていたのですね。机間指導をすれば、学生さんの学習の様子をリアルタイムで把握することができます。質問を受けることも可能です。

あとは、まず学生さんの名前を覚えることを心がけています。名前を覚えることは、指導の基本ですし、学習履歴を考える上で欠かせないことです。いくら人数が多い授業でも名前を覚える努力をしています。

石原菜摘さんが述べているモデルの活用も心がけています。私が出すモデルよりも、学生さんのモデルの方がとても有効であることもたびたび実感しています。

今後のさらなる活躍を期待しています。